



みんなのしおり

第119号 ようやく涼しく…秋号

巻頭エッセイ

“葉っぱ切り絵”ってごぞんじですか？

私が、初めて“葉っぱ切り絵”に出合ったのは、デパートの催事場でした。たまたま買い物途中で案内を見つけ立ち寄ったところ、細工の細やかさに驚くとともに、子どもの頃のアサガオの押し花や、旅先で拾ったもみじの葉などが思い起こされました。なぜあの時の葉っぱたちは、時間が経つとパリパリに乾いてしまい修復不可能になったのに、“葉っぱ切り絵”はそうならないのか？

その答えが図書館でみつけたこの本にありました。巻末のメソッドには適度な弾力と柔らかさのあるドライリーフの作り方がかいてあり、切りやすく作品として保存もできるとのこと。そのドライリーフにデザインを下書きしデザインナイフで絵の内側部分から切り抜いていって1日で仕上げるそうです。サンゴジュやアイビーの葉っぱは大きさとしては大人の手のひらサイズ、そこに凝縮された物語が魅力なのだと思います。

「葉っぱ切り絵いきものずかん」には自然の額縁を背景にした作品の写真ごとに、タイトルといきもののストーリーが添えられています。

個人的には、「あっ、ここに入れるから袋は大丈夫です」というタイトルの買い物をするカンガルーの作品が好きです。皆さんもお気に入りの1つをみつけてみてはいかがでしょうか。

「葉っぱ切り絵いきものずかん」 リト@葉っぱ切り絵／著 講談社
タイトルコード:1002410031378

(佐藤)

★おしらせ★

* 10月と12月は10冊貸出です

* 臨時休館

図書館オンラインシステム更新のため、次の期間、休館します
2025年12月29日(月)～2026年1月8日(木)



★展示★

藤前干潟関連展示 10/18(土)～11/20(木)
子どもの本:クリスマスとふゆの本 11/22(土)～12/28(日)

★スマホで本が借りられます★

貸出券とパスワードをお持ちの方は、スマホ貸出ができます。
名古屋市図書館のHPで、マイページにログイン→「利用者情報設定」→「利用者番号バーコード表示」と進んでください。

パスワード：貸出券と健康保険証などをおもちください
カウンターで発行します



便利!



発行:名古屋市山田図書館

〒452-0815

名古屋市西区八筋町358-2

電話 052-503-5340

ファクミリ 052-503-5341

古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

❖ ロバのクサツネと歩く日本 ❖

高田晃太郎／著 河出書房新社

ロバは歩く旅の相棒には最高だ！とわかります。50万円で買ったロバとともに、フェリーに乗ったり、牧場で馬との交流を楽しんだり。いいなあ…ロバ！

日本縦断の旅を経てうっすら見えてくる、ロバとの新しい人生プランもいい感じです。

(1002510028077)



❖ 押し博物館ひとり旅 ❖

明／著 集英社

押し博物館をマンガで紹介。寝台列車や夜行バスを使った、目的地までの旅もみどころです。せまいバスの中で荷物をどう仕分けるかなど、実用的で、旅の楽しみが頭の中で広がります。

(1002510008538)

❖ 世界の児童文学をめぐる旅 ❖

池田正孝／著 エクスナレッジ

「ピーターラビットのおはなし」「不思議の国のアリス」など、世界の児童文学は、実在の地を舞台に描かれたものがいっぱい。

著者は40年にわたり、おはなしの場所を訪ねて写真におさめてきました。ほほえましい旅のエピソードや物語の背景とともに、写真をお楽しみください。

(1002010057832)

❖ 歩く江戸の旅人たち

スポーツ史から見た「お伊勢参り」 ❖

谷釜尋徳／著 晃洋書房

太平の世の中が続いた近世後期、数多くの旅行案内書が出版されたそうです。紙製の「日時計」を付録としたものもあったとか。

旅のアイテム・「棒」、日本人の歩き方、交通マナーなど、多様な視点から江戸の旅人を分析します。

(1002010003070)



ようやく秋。

さあ、でかけよう！



❖ 絵で旅する国境 ❖

文研出版

クドル／文、ヘラン／絵、なかやまよしゆき／訳

国境に、かたい守りの壁を立てる国もあるけれど、人びとは国境をこえてつながっている。海、山、鉄条網、フェンス、あるいは1本の木の杭。さまざまな国境をながめる旅へでかけませんか。

(1002210065519)児童書

❖ ロシア点描

まちかどから見るプーチン帝国の素顔❖

小泉悠／著 PHP研究所

ロシアってどんな国かな…。人々はそっけないけれど、弱い人は放っておかない面倒見のよさがある、など、ロシアのありのままを語っていて楽しい1冊です。地下空間の政治的な秘密や、プーチン政権の今後にも迫ります。

(1002210005083)



❖ 忙しい人のための美術館の歩き方 ❖

ちいさな美術館の学芸員／著 筑摩書房

美術展では、解説を読まずにおれない私。この本で、アートをいい加減に見る方法を学びました(あくまで真面目)。

意味がある、ということが基準にならないアートの楽しみをどうぞ。

(1002510024641)